

# 福岡県の古代山城

朝鮮半島・中国大陸との窓口位置する福岡県には、白村江での大敗を機に築かれた大野城をはじめ、とりわけ多くの古代山城が発見されています。本大会では、遺跡調査の最前線に立つお二人が、飛鳥・奈良時代の山城と日本の姿について講演します。

第四十五回 福岡県地方史研究協議大会

## 講演

### ◆「七世紀の国土防衛」

-古代山城の築城と背景-

小川 秀樹 氏 (行橋市教育委員会)

### ◆「怡土城とその時代」

-吉備真備をめぐる人間関係-

瓜生 秀文 氏 (糸島市教育委員会)

期 日 平成23年 **6月25日(土)**

13:00~16:30 ※受付開始 12:30

会 場 **福岡県立図書館**

レクチャールーム (地下鉄箱崎宮前駅から徒歩3分)

定 員 **160名 (事前申込不要)**

参加費 **無料**

主催 福岡県教育委員会

共催 福岡県地方史研究連絡協議会 (福史連)

《お問合せ》 福岡県立図書館 郷土資料課 ☎092(641)1126

## \* 講演内容紹介 \*

### 【 七世紀の国土防衛 –古代山城の築城と背景– 】

小川 秀樹 氏 (行橋市教育委員会)

七世紀、九州から近畿地方にかけて 20 を越える古代の山城が築かれます。このうち 11 の山城が福岡県にあり、本県は全国で最も古代山城が集中する地域といえます。これらの城は当時の土木技術を結集して築かれた国土防衛網であり、日本の古代国家の成立とも深く関わる遺跡とされています。しかし多くの山城は築造の記録が残っていないことから、築造時期や築造目的について研究者の間で今も論議が続いています。各地の山城の構造や立地を検討し、古代山城築城の意義と、歴史の大きな転換期となったこの時代について考えていきます。

### 【 怡土城とその時代 –吉備真備をめぐる人間関係– 】

瓜生 秀文 氏 (糸島市教育委員会)

白村江の敗戦後、朝鮮半島では旧百済領をめぐる唐と新羅が戦争をくり広げる中で、日本(倭)と新羅両国の国交が回復し、新羅は宗主国として日本に朝貢してきます。しかし、八世紀に入ると日羅関係は悪化の一途をたどり、日本国内においては、二度にわたり新羅征討論が発生します。このような状況のなかで築城されたのが「怡土城」です。吉備真備は、政敵である藤原仲麻呂によって任命された最初の築城担当者でした。当時の国内外の情勢と怡土城築城の意義について考えていきます。

## \* 同時開催 \*

◆ 6月25日(土)

### 第5回地方史フェア (福史連主催)

福史連加盟団体のパネル展示と刊行物の販売を行います。(当日のみ)

◆ 6月1日(水)~6月30日(木)

### ミニ展示「福史連加盟郷土史研究会の会報」

福岡県立図書館3階郷土資料室前にて会報の展示を行います。

お問合せ 福岡県立図書館 郷土資料課

福岡市東区箱崎 1丁目41-12

TEL 092-641-1126 (直通)

FAX 092-641-1127 (代表)



公共交通機関を御利用の上御来館ください。